

# 10年間で計1千本植樹

## カブトムシの森づくり

町自然館  
松田自

松田町西平畑公園内の町自然館(渡邊建雄館長、同町松田惣領)では、カブトムシが生息できる森づくりを新たに始める。豊かな命が育まれる自然環境を松田山の中腹に整え、子供たちが屋外で体を動かし、自然に親しめる場としても機能させる。数年間かけて広葉樹、照葉樹合わせ1000本以上を植える計画。

大きな目的は①五感(カブトムシが生息できる森づくり(松田山本来で楽しむ森づくり(カブトムシ)②ふるさとの(植生の復元)――。



クヌギやコナラの苗木45本が、樹木園に新しく植えられた

具体的には、同館隣の樹木園に多種類の木を植え、長い期間にわたって育てる。活動の第1弾として11日午前、雑木林育成に向けての植樹があった。種類はクヌギやコナラなど約40種。同町や近隣地域に住む親子らが参加し、高さ1メートル程度の苗木を樹木園の一角に植えた。以前は松田の市街地にもちよっとした林があったが、いまでは伐採されて駐車場に姿を変え、身近な場所でも

ブトムシに触れられる環境がない。それでも子供たちはカブトムシが好きで、飼育したいと考える子も多い。広葉樹の雑木林はカブトムシのすみか、さらに餌となる「命の現場」。今回の事業には、昆虫がすめる自然環境を自分たちの手で整え、育てようとの狙いがある。雑木林づくりに関連し、今年度はあと2回の活動。秋に下草刈り、冬には落ち葉を集め腐葉土にする。カブトムシの幼虫はクヌギやコナラの腐葉土の中で冬を越し、土

に混じった栄養たっぷりの葉を食べて大きくなる。雑木林づくりでは植樹だけでなく、昆虫の命をつなぐ環境も参加者の手で整える。また、自然館ではカブトムシを独自に育てている。同館または樹木園に飛んできた雄と雌を捕まえた結果、卵が生まれて幼虫へと成長。この個体を雑木林に放ち、新しい森で命が次々と育まれる姿を目指す。

進和学園が苗提供 障害者の仕事の場 事業には社会福祉法人進和学園(平塚市万田)が協力し、苗木を無償で提供。障害者の生活・就労支援施設を運営しており、樹木園での作業(植樹や除草)が利用者の仕事の場になる点を重視し、自然館との連携を決めた。苗木を栽培するのは、5つの福祉施設からなる「どんぐりプラザ」の利用者。同法人のサポートを受け、樹木育成のノウハウを学んでいる。森づくりに積極的に参加している人たちは今後、樹木園への立ち入りが自由。立派な雑木林ができるまでは少なくとも10年ばかり、息の長い活動となる。渡邊館長は協力者に感謝し、「森に集まる命(樹木や昆虫、野鳥)を中心に、さまざまな自然のつながりがあることを知ってもらえたら、とても有意義です。子供たちに対しては、屋外での自然体験の場をつくりたい」と、うれしそうに話した。